

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成22年度－

2012

山形市教育委員会

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成22年度－

平成24年3月

山形市教育委員会

序

山形市は山形盆地の南部に位置し、最上川の支流である馬見ヶ崎川や立谷川などが市内を流れ、東は蔵王連峰、西は出羽山地に囲まれた水と緑に恵まれた自然豊かな環境にあります。山寺地区には、平安時代に慈覚大師の開基と伝わる国指定名勝・史跡「山寺」が所在し、市内の中心部には、山形市街地の原型を作った最上義光の居城である国指定史跡「山形城跡」が所在するなど、山形県内はもとより、東北の中心的地域として古くから栄えてきました。

また、国指定史跡「嶋遺跡」など、埋蔵文化財と呼ばれる地中に埋もれた遺跡が、市内に380箇所以上確認されています。

これらの文化財は、郷土の歴史や文化を理解する上で欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

その一方で、多種多様な開発事業が市内各所で実施されています。山形市教育委員会では、これら開発事業と埋蔵文化財の保護との調整の結果、試掘調査や立会調査などを実施しており、埋蔵文化財の保護に努めています。また、国指定史跡「山形城跡」の整備を目的とした発掘調査も継続しているところです。

本書は平成22年度に実施された調査の概要をまとめたものです。埋蔵文化財の保護と啓発のために、そして皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ誠に幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成24年3月

山形市教育委員会
教育長 後藤恒裕

例 言

- 1 本書は平成22年度に山形市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査を総括したものである。
- 2 表面踏査・試掘調査・立会調査については本書をもって報告とし、既に報告書が刊行されているものについては割愛した。なお、嶋遺跡の概要報告については平成23年度に報告書が刊行されるため、割愛していることを付記しておく。
- 3 本書の作成・執筆は、齋藤仁・植松薫・樋口修が担当した。編集は齋藤仁が担当した。
- 4 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会が一括保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した地形図等は以下の通りである。
 - 第1図 国土地理院発行1：50,000地形図「山形」(NJ-54-21-11)、「荒砥」(NJ-54-21-15)を1：100,000に縮小。
 - 第5図 山形市発行1：5,000道路網図35
 - 第6図 山形市発行1：10,000「山形広域都市計画図 7」
- 2 遺跡概要図・遺構配置図等の方位は原則として座標北を示しているが、一部任意のものがありその場合図示している。

目 次

I 埋蔵文化財保護の動向	
1 平成22年度の調査概況	(齋藤仁) …… 1
II 調査の概要	
1 史跡山形城跡	(齋藤仁) …… 6
2 立会調査	
(1) 長谷堂城跡	(植松薫) …… 14
(2) 成沢城跡	(植松薫) …… 14
(3) 大森斉当遺跡	(植松薫) …… 17

表

表1 平成22年度埋蔵文化財調査・届出一覧	… 3	表3 二の丸土塁巽櫓石垣石材一覧	… 13
表2 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧	… 5		

挿 図

第1図 調査地点位置図	… 2	第5図 長谷堂城跡調査位置図	… 15
第2図 史跡山形城跡平成22年度 発掘調査位置図	… 10	第6図 成沢城跡調査概要図	… 16
第3図 本丸御殿跡調査平面図	… 11	第7図 大森斉当遺跡立会調査概要図	… 17
第4図 二の丸土塁(南東部)調査概要図	… 12		

写真図版

写真図版1 大森斉当遺跡立会調査写真	… 18
--------------------	------

I 埋蔵文化財保護の動向

1 平成22年度の調査概況

平成22年度は、3件の発掘調査、12件の試掘調査、13件の立会調査を実施した。実施した調査の一覧を表1に示した。

発掘調査では、屋内型児童遊戯施設建設に伴い嶋遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を実施したが、住居跡などが検出され隣接する国指定史跡「嶋遺跡」と同等の価値を有すると思われるため現状保存することとした。なお、嶋遺跡の概要については平成23年度に調査報告書が刊行する予定であるので、ここでは割愛した。飯塚遺跡は、保育園新築に伴うもので記録保存を目的とした調査である。また、国指定史跡山形城跡の整備事業に伴う発掘調査を昨年度以降継続して実施している。

試掘調査では、宅地造成及び共同住宅建設等に伴う調査を実施した。周知の埋蔵文化財包蔵地内であっても既往の開発により遺構が既に破壊されていたり、遺跡が確認されないなどにより発掘調査に至ることは無かった。

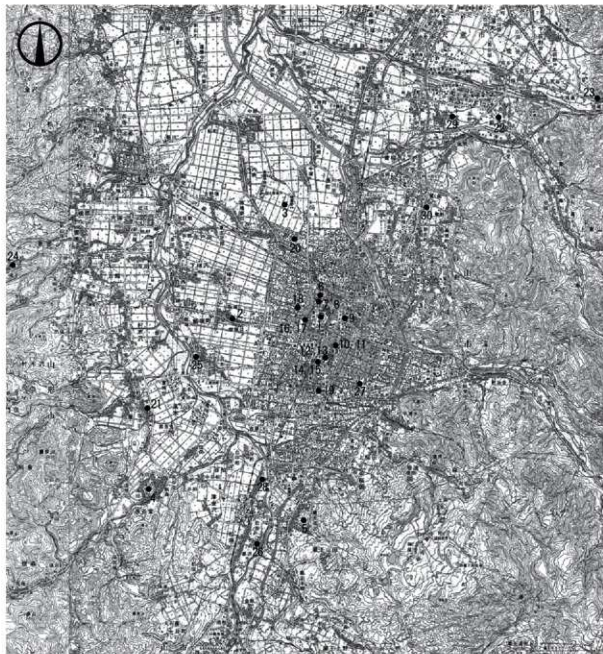
立会調査では、公園整備事業に伴い長谷堂城及び成沢城、個人住宅建設等に伴い山形城三の丸跡などの調査を実施した。長谷堂城及び成沢城では、遺構面に工事が達しないか、もしくは掘削範囲が狭小であるため、埋蔵文化財への影響は軽微であった。山形城三の丸跡では遺構は確認されなかった。一方、大森斎当遺跡では竪穴住居跡と判断される遺構や平安時代の遺物等が検出され、遺構の掘下げや遺物の取上げ及び写真等による記録作業を実施した。

整理作業では上記の嶋遺跡や山形城跡、飯塚2遺跡の整理作業を行った。

平成22年度における民間開発に係る事業調整では、民間による埋蔵文化財の照会が延べ473件あり、前年度に比べ88%と減少した。そのうち開発事業に係るものが115件あり、その大半は個人住宅建設、集合住宅建設に係るものである。事業規模等から試掘調査などの調査を実施したものは12件で、共同住宅、宅地造成、高齢者福祉施設建設などである。木造の共同住宅建築や携帯電話基地局建設に係る調整では、事業規模から不時発見時の手続きの説明や慎重工事としているものが多い。また全体の傾向として、昨年度同様小規模な宅地造成や共同住宅建設の比率が大きくなっている。

文化財の指定関連で、市指定有形文化財の菅沢二号墳出土の埴輪群が平成23年12月27日付で県指定有形文化財に指定された。これに伴い、市指定が解除されている。

なお、これまで本市で刊行した埋蔵文化財発掘調査報告書は表2の通りである。



- 1：山形城 2：飯塚2 3：嶋 4：長谷堂城 5：成沢城 6：城北・山形城三の丸 7, 8：山形城三の丸（城北町） 9：山形城三の丸（旅籠町） 10, 11：山形城三ノ丸（香澄町二丁目） 12, 13：山形城三の丸（香澄町三丁目） 14, 15：山形城三の丸（幸町） 16, 17：山形城三の丸（城西町一丁目） 18：山形城三の丸（城西町三丁目） 19：山形西高敷地内 20：江保 21：塩幸田 22：大森齊当 23：地藏堂 24：滝の平館 25：老人ホーム新築（沼木） 26：市営南山形住宅建替（第2期）（南松原二丁目） 27：老人ホーム新築（小荷駄町） 28：保育園建設（片谷地） 29：工場新築（十文字） 30：駐車場新設（穂積）

第1図 調査地点位置図

表1 平成22年度埋蔵文化財調査・届出一覧

No.	遺跡名	県遺跡番号 (中世城館 遺跡番号)	調査地	調査区分	事業名	調査期間	調査 面積 (m ²)	担当者	備考
1	山形城	1 (201-001)	霞城町3地	発掘調査	史跡山形城跡跡 社会資本整備 事業	2010/5/20 ～10/8	1,200	齋藤 仁 公平 浩志	国指定史跡
2	飯塚2	平成21年度 新規	飯塚町字宮 浦	発掘調査	保育園建設	2010/4/26 ～6/7	130	樋口 修 樋口 有美	
3	嶋	4	嶋北二丁目	発掘調査	屋内型幼児遊 戯施設建設	2010/7/1 ～11/30	2,600	樋口 修 樋口 有美	開発事業用地変 更し現状保存。 次年度別地点を 調査。
4	長谷堂城	104 (201-011)	長谷堂	試掘調査	駐車場造成	2010/7/16		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
				立会調査	公園整備	2010/10/25・ 11/14・11/19		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
5	成沢城	63 (201-014)	蔵王成沢	立会調査	公園整備	2010/8/25・8 /26・9/1・ 12/21		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
6	山形城 三の丸	平成17年度 新規	肴町	立会調査	個人住宅	2010/7/20		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
		平成7年度 新規 (201-002)							
7	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	城北町二丁 目	立会調査	個人住宅	2010/4/12		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
8	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	城北町一丁 目	試掘調査 慎重工事	集合住宅	2010/4/15		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。 試掘の結果、影 響軽微。
9	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	旅籠町一丁 目	立会調査	個人住宅	2010/10/29		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
10	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	香澄町二丁 目	慎重工事	医師会館新築				既存の建築物に より遺跡は破 壊。
11	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	香澄町二丁 目	試掘調査	ケアセンター 新築	2010/11/19		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
				慎重工事					試掘の結果、影 響軽微。
12	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	香澄町三丁 目	試掘調査	道路改良	2010/6/2		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
				慎重工事					
13	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	香澄町三丁 目	立会調査	学校建設	2011/1/13		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
14	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	幸町	試掘調査	宅地分譲	2010/6/1		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
15	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	幸町	慎重工事	個人住宅				埋蔵文化財への 影響軽微。
16	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	城西町一丁 目	立会調査	個人住宅	2011/1/13		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
17	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	城西町一丁 目	立会調査	個人住宅	2010/12/8		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。

I 埋蔵文化財保護の動向

No.	遺跡名	県道路番号 (中世城跡 道路番号)	調査地	調査区分	事業名	調査期間	調査面積 (m)	担当者	備考
18	山形城 三の丸	平成7年度 新規 (201-002)	城西町三丁目	慎重工事	個人住宅				埋蔵文化財への 影響軽微。
19	山形西高 敷地内	29	鉄砲町一丁目	立会調査	店舗増築	2010/12/10, 16, 17, 21		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
20	江 俣	130	江俣三丁目	試掘調査 慎重工事	集合住宅	2010/10/1		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。 試掘の結果、影 響軽微。
21	塩 塚 田	17	柏倉	立会調査	道路改良	2010/9/21		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
22	大森齊当	平成9年度 新規	大森字齊当	立会調査	老人ホーム増 築	2010/9/14, 15		植松 薫	一部遺構・遺物 を検出。
23	地 蔵 堂	185	山寺字地藏 堂	立会調査	駐車場造成	2010/4/19		齋藤 仁	遺構・遺物確認 されず。
24	滝の平館	昭和53年度 新規	滝平	立会調査	携帯電話基地 局	2010/9/15		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
25			沼木字下河 原他	試掘調査	老人ホーム新 築	2010/4/7		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
26			南松原二丁 目	試掘調査	市営南山形住 宅建替(第2 期)	2010/5/18		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
27			小荷駄町	試掘調査	老人ホーム新 築	2010/4/17		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
28			片谷地字東 浦	試掘調査	保育園建設	2010/4/8		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
29			十文字字大 原	試掘調査	工場新築	2010/4/13		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。
30			穂積	試掘調査	駐車場新設	2010/12/27		植松 薫	遺構・遺物確認 されず。

表2 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

集番号	報告書名	発行年月日	発行機関	備考
1	熊ノ前遺跡第1次発掘調査報告書	1975/5	山形市教育委員会	
2	熊ノ前遺跡第3次発掘調査報告書	1978/11	山形市教育委員会	
3	山形城跡発掘調査報告書	1981/3	山形市教育委員会	本丸及び二の丸部分
4	菅沢2号墳発掘調査報告書	1987	山形市教育委員会	
5	菅沢2号墳	1991	山形市教育委員会	
6	嶋遺跡発掘調査概報	1994	山形市教育委員会	範囲確認調査の報告
7	馬上台遺跡発掘調査報告書	1995/3	山形市教育委員会	
8	山形城本丸発掘調査概報	1996/3	山形市教育委員会	平成6・7年度調査概報
9	中野目Ⅰ遺跡中野目Ⅱ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	特殊法人日本勤労者住宅協同組合 山形県労働者住宅生活協同組合 山形市教育委員会	
10	吉原Ⅰ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社カワチ薬品 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
11	吉原Ⅲ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社東北ケーズ電気 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
12	一ノ坪遺跡発掘調査報告書	2001/11/30	山形市考古学研究所 山形市教育委員会	
13	吉原Ⅶ遺跡発掘調査報告書	2002/3/31	東松山北田建設株式会社 山形市教育委員会	
14	石田遺跡上谷柏遺跡発掘調査報告書	2002/6/30	東山北東山電力株式会社 山形市教育委員会	
15	山形城三の丸跡(山形市立第一小学校教地内)発掘調査報告書	2003/3/31	山形市教育委員会	
16	吉原Ⅱ遺跡第3次発掘調査報告書	2003/3/31	株式会社ニラーク 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
17	双葉町遺跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書 近世編	2004/3/31	山形市教育委員会	
18	山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	山形市考古学研究所 山形市教育委員会	
19	吉原遺跡群発掘調査報告書	2004/3/31	吉原土地区画整理組合 山形市教育委員会	吉原土地区画整理事業に伴う調査報告書
20	観音堂遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	芸工大前土地区画整理組合 山形市教育委員会	
21	成沢西遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	成沢土地区画整理組合 山形市教育委員会	
22	河原田遺跡・梅野木前2遺跡発掘調査報告書	2004/3/31	嶋土地区画整理組合 山形市教育委員会	
23	南志田遺跡発掘調査報告書	2005/3/31	山南タクシース株式会社 山形市教育委員会	
24	双葉町遺跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書 縄文時代～中世編	2005/3/31	山形市教育委員会	
25	双葉町遺跡城南町遺跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書	2006/3/31	山形市教育委員会	
26	梅野木前1遺跡発掘調査報告書	2006/3/31	山形市教育委員会	
27	北向遺跡発掘調査報告書	2006/3/31	山形市考古学研究所 山形市教育委員会	
28	梅野木前1遺跡発掘調査報告書	2007/7/31	株式会社教育委員会 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
29	嶋遺跡範囲確認調査報告書	2008/3/31	山形市教育委員会	重要遺跡範囲確認。
30	山形城三の丸跡(城北遺跡)発掘調査報告書	2009/3/31	山形市教育委員会	
31	飯塚2遺跡発掘調査報告書	2010/3/31	社会福祉法人慈風会 山形市教育委員会	
32	史跡山形城跡本丸(東・南)堀・土塁跡発掘調査報告書	2011/3/25	山形市教育委員会	
33	史跡山形城跡本丸一文字門石垣・大手橋・本丸堀土塁復原整備事業報告書	2011/3/25	山形市	
34	飯塚2遺跡第2次発掘調査報告書	2011/3/31	社会福祉法人慈風会 山形市教育委員会	

第II章 調査の概要

1 史跡 山形城跡

(1) 調査要項

遺跡番号	県道跡番号1	遺跡略号	KJO
所在地	山形市霞城町3番地他(霞城公園)		
調査原因	社会資本整備事業	調査面積	1,200㎡
調査期間	2010/5/20~10/8		
調査担当者	齋藤 仁	調査補助員	公平浩志

(2) 調査の経緯

山形城跡は、昭和61(1986)年に国史跡指定を受け、平成3(1991)年には「二の丸東大手門」の復原が完了した。平成8年度から15年度までは本丸一文字門周辺の発掘調査を実施(石垣復原工事は平成10年度から15年度)し、平成17年度からは22年度は史跡等総合整備活用推進事業(文化庁補助)により継続的に本丸堀跡・土塁跡の調査および復原事業を進めている。平成22年度は、本丸御殿跡整備に伴う事前調査および二の丸土塁(南東部)に園路を改良する事業に伴う事前調査(ともに国土交通省補助)を実施した。なお、本丸御殿跡の調査については平成21年度から継続して行っている箇所であるため、平成21年度分の概要も併せて掲載する。

(3) 遺跡の概観

山形城跡は奥羽山系を源とする馬見ヶ崎川扇状地の扇端部に位置し、その地盤は河川氾濫原による砂礫層である。最上氏は近世初頭(慶長・元和期)に最大57万石の領国を支配し、その拠点として三の丸までの輪郭式の城と城下の町割りを築いたといわれる。二の丸は元和8(1622)年島居氏入部時に改修し、現在の形に整えられた。

現在は二の丸堀・土塁が現存するほか、虎口部分のみ石垣を用いた様式が比較的良好に保存されている。一方、本丸堀・土塁は明治に旧陸軍の兵営地になる際破壊され、その後公園として利用され面影はまったくなくなった。史跡指定以後、山形市が主体となり発掘調査および復原工事を進め、近世山形城の姿が復原されつつある。

調査区の現況は、本丸御殿跡がグラウンドとして使用されていたが、本丸一文字門整備等に伴い現在は廃止されている。二の丸土塁は良好な状態で現存しており、散策のための園路が通されている。

(4) 検出された遺構

i) 本丸御殿跡

本丸御殿推定位置の西側において、建造物等の遺構面の所在および堆積土層の確認を目的として調査を行った。昨年度の調査区を含め15m×40mの600㎡の調査区である。

基本層序は以下の通りである。I層は約50~70cmの厚さで堆積している近現代の層序で、主に旧グラウンドの整地層である(層厚はBC-39グリッド付近で計測、以下同じ)。I層の直下は近世初頭の堆

積であるIIa層が存在し、これは大きく2層に分けられる。IIa1層の厚さは平均して10~20cmだが、場所によっては50cm以上堆積している場合もあり変化が大きい。地山由来と思われる黄褐色の砂粒ブロックを多く含むのが特徴である。IIa2層は今回の調査の遺構検出面である。

検出遺構は、礎石建物跡が2棟、掘立柱建物跡が1棟、溝が2条、土坑が3基、ピットが2基、性格不明遺構が3基である。

礎石建物跡は、調査区北側のSB09002と南西側のSB10003の2棟検出された。SB09002は平成20年度の調査ですでに一部が検出されており、今回は引き続き範囲を広げて調査した。南北5間、東西5間の総柱の建物であるが、北側および西側に近代に属すると思われる攪乱SX10010に切られた東側は調査区外であるため、本来はもっと規模が大きかった可能性が高い。礎石は長径およそ40~60cmの楕円形もしくは垂円形で扁平な礫が使用されほとんどは加工痕がない玉石である。礎石の下には直径10cm前後の礫を敷いた根石が設置されており、根石は直径約60cmの掘り方をもつ皿状のピットの底面に貼り付けてある。柱の間尺は芯々間でおおよそ195~199cmである。つまり、この建物は一間6尺(約180cm)ではなく、6尺5寸(約197cm)の基準で建てられているのである。

SB10003は今年度新たに検出された建物である。南北6間、東西1間で南側に庇を有するが、北側が近代に属する攪乱SX10010に切られておりまた西側が調査区外にあるので、全体の規模は不明である。礎石、根石、掘り方の形状及び規模はSB09002とほぼ同じで、根石の上に長径およそ40~60cmの扁平な玉石を礎石として設置している。ただし、礎石の一部で赤褐色に変色していたり表面が脆くなって剥離していたりする個体が認められることから、火災等による被熱があったことが伺える。SB10003近辺の土層を観察すると、火災処理後の地ならしと思われる層がありここから多量の焼土、炭化物が含まれているので、これも火災が起こったことを裏付けるものであろう。このSB10003の東側には南北に礫を並べた石列遺構があり、さらに石列遺構の東には瓦を地面に貼りつけた遺構SX10009が設置されている。瓦はすべて黒瓦かつ大部分が破片資料でまた二次被熱の痕跡が認められるものが多く、火災で焼け落ちた瓦の再利用である可能性が高い。SX10009はSB10003の東側の軒下に位置していることから、屋根からの雨落ちを受け止めるための遺構であると考えられる。

掘立柱建物跡は、調査区南西側のSB10004の1棟が検出された。検出された規模は南北7間のみで、南及び西側は調査区外、北側は近代の攪乱SX10010に切られているので全体の大きさは不明である。SB10004は礎石建物のSB10003とほぼ同じ場所に位置しているので時期差があると考えられるが、柱穴同士の切り合いは無く前後関係は不明である。ただ、建物配置の軸線はほぼ同じ方向を向いているので、大きな時間差はないと考えられる。柱穴は長径1.0~1.5mと比較的規模が大きい。柱はすべて抜き取られているようで、確認されたものはない。柱穴の掘り方の埋土に焼土や炭化物が多く含む場合があるので、火災のちに建てられた建物である可能性がある。

SB09002の南側かつSB10003及びSB10004の東には性格不明の大きな掘り込みSX10011がある。今回はトレンチ調査であるため全容は不明であるが、深さは建物跡の検出面から少なくとも1m以上あり、落ち込んでいく斜面の一部に拳大から人頭大の礫を貼りつけている箇所が存在した。礫は遺構の

II 調査の概要

底面にも存在するが、底面は貼りつけたというより廃棄されたように伺える。また、底面付近の土層は水性堆積を伺わせるようなシルト質の堆積が観察できた。建物の配置や遺構の形状、土層堆積等から、遺構の性格は庭園の池のようなものを想定できる。ただし、斜面の傾斜がかなり急でかつ深いこと等から、他城郭の池遺構（例えば仙台城や赤穂城）と比較すると形状がかなり異なる。今のところは、池の可能性を指摘するにとどめた。

以上の遺構の年代であるが、遺構検出面や柱穴等の遺構から出土する遺物が、輸入磁器、瀬戸美濃（第3～4段階）、かわらけ等で国産磁器を含まないことから、16世紀後半から17世紀初頭の年代を与えられている。

ii) 二の丸土塁（南東部）

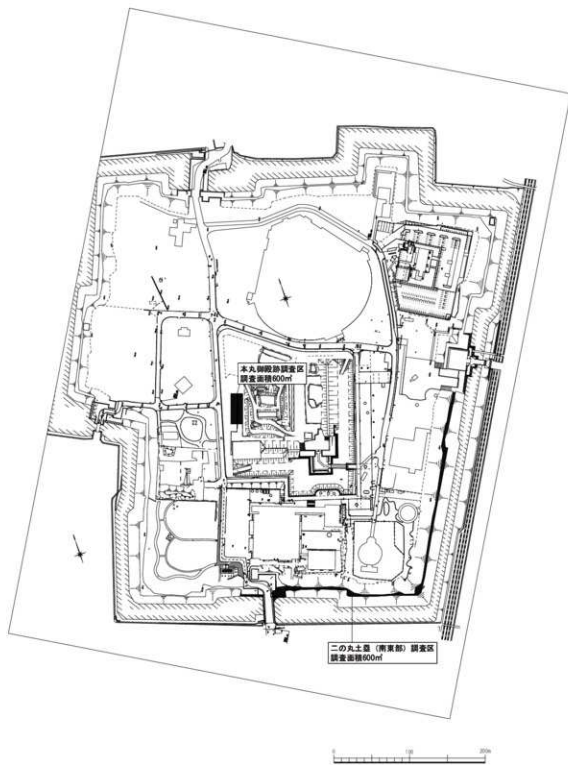
二の丸土塁で東大手門から南大手門にかけての園路を通行しやすくように作り変える事業に伴い、遺構面の深さや重要な遺構の有無の確認を目的として行った。ここでは南大手門石垣、巽櫓、土塁についてそれぞれの成果を概説する。

南大手門石垣は南北2本、東西1本の計3本のトレンチを設定して調査を行った。土層は地表面から約1mが現代の攪乱層で、その直下が石垣の栗石層となる。櫓の土台となる礎石等は検出されなかったため、現代の攪乱により失われてしまったと考えられる。一方、南北トレンチ2本より、土塁に隠されて存在がわからなかった北面の石垣が検出された。現在は石垣の北面に土塁が接続しているため、北面石垣は一部が露出しているが、それ以外の部分について土塁に隠れてその存在は明らかでなかった。今回の調査により、石垣は北面全体に続いていることが判明し、当時石垣の施工にあたっては東西南北4面の石垣を一周するように作り上げたのちに土塁を北面石垣に接続するように盛り上げていったことが明らかとなった。

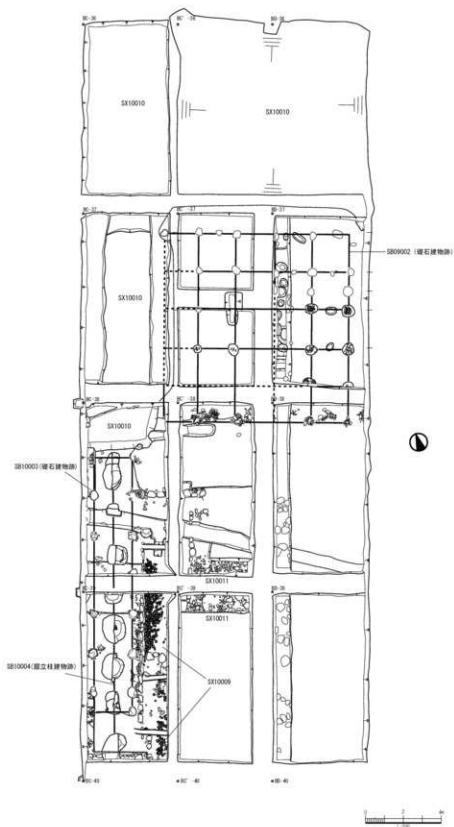
巽櫓は二の丸土塁の隅櫓の一つで、南東部（巽の方角）に設置されているためこの名称がある。今回の調査で櫓台となる石垣が検出された。石垣は1段目から2段目まで残存していたが、天端石は確認できなかった。西側には雁木が検出され、2段目まで残存していた。石垣の平面規模は、南北約10m95cm、東西約6m82cmであった。近世後期の絵図によると、巽櫓は南北5間5尺、東西3間4尺とあるので1間6尺の間尺で設計されたことが判明した。石垣周辺の土層はおおよそ4層に分けられる。上から順にⅠ層（表土及び近現代の整地層）、Ⅱ層（近世後期の整地層）、Ⅲ層（近世前期の整地層）、Ⅳ層（近世初頭の整地層）となる（Ⅳ層は一部で確認されるのみ）。年代の根拠であるが、Ⅱ層は赤瓦を含み、堀田氏の家紋である木瓜文の瓦当を有する瓦が出土するため、18世紀以降。Ⅲ層は赤瓦を含み、1点のみではあるが肥前系磁器の初期伊万里が出土しているため、おおよそ17世紀代の年代。Ⅳ層は、少量だが金箔瓦を含むので17世紀初頭の年代が与えられる。最下層のⅣ層の年代と石垣築造の年代は同一である可能性が考えられるが、ここでは結論を出さず今後の検討を待ちたい。石垣の石材について、山形大学地域教育文化学部の大友幸子教授により現地調査をしていただきその成果をまとめていただいた（表3）。これによると、全78点ある石材のうち、花崗岩が31点（39.7%）、デイスイトが26点（33.3%）、流紋岩が11点（14.1%）、安山岩が8点（10.3%）、砂岩が1点（1.3%）、凝灰岩

が1点(1.3%)である。本丸一文字門櫓の石垣は安山岩が卓越しているのに比べ、二の丸巽櫓では花崗岩およびデイサイトが目立つ。これは、石材産出地が異なることを示すとともに、石垣の規模の違いによる原石のサイズ、加工のしやすさ等を考慮した結果によるものと考えられるが、これも詳細な検討は今後の課題である。

土塁については、頂部平坦面の堰側に塀の基礎である石列を検出した。石列が途切れている箇所もあったがこれは後世の攪乱で失われたもので、本来は土塁を一周していたのであろう。基本的に石列は2列ありこの組み合わせで塀を支えていたと考えられるが、場所により3列検出されたところもある。これは塀の建替えによるものと推定している。

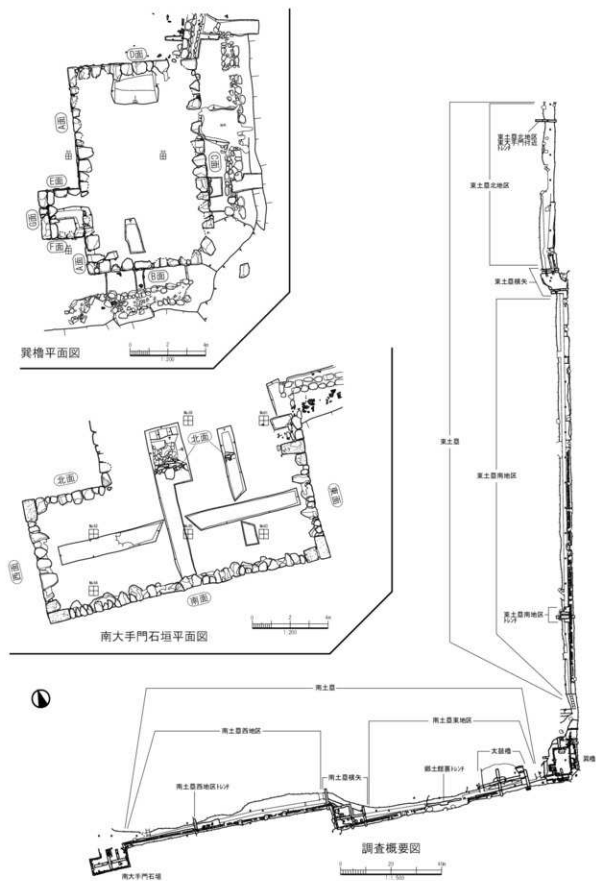


第2図 史跡山形城跡 平成22年度発掘調査位置図



第3図 本丸御殿跡調査平面図

II 調査の概要



第4図 二の丸土塁（南東部）調査概要図

表3 二の丸土器異様楕石垣石材一覧

石材No.		石材特徴		加工度		石材特徴		石材No.		石材特徴		加工度		その他	
位置	No.	段数	岩石名	備考	加工度	その他	備考	No.	段数	岩石名	備考	加工度	その他		
A面	1	1	流紋岩		割石	ノミ痕有、磨石、D11と同一		C面	7	2	デイスait	割石			
A面	2	1	安山岩	磨石安山岩	割石			C面	8	1	安山岩	割石	磨石安山岩		
A面	3	1	花崗岩	中粒	割石			C面	9	1	花崗岩	割石	中粒		
A面	4	1	安山岩	磨石安山岩	割石	垂向に割っている		C面	10	2	デイスait	割石			
A面	5	1	デイスait		割石			C面	11	1	花崗岩	中粒			
A面	6	1	砂岩	結核質	割石			C面	12	2	花崗岩	中粒			
A面	7	2	花崗岩	中粒	割石			C面	13	2	デイスait	割石			
A面	8	1	花崗岩	中粒	割石			C面	14	2	花崗岩	中粒			
A面	9	1	花崗岩	中粒	割石			C面	15	2	花崗岩	中粒			
A面	10	2	花崗岩	中粒	割石			C面	16	2	デイスait	割石			
A面	11	1	デイスait		割石			C面	17	1	花崗岩	中粒			
A面	12	1	デイスait		割石			D面	1	1	デイスait	割石			
A面	13	2	花崗岩	細粒	割石	垂向？河原の礫を割っている		D面	2	2	花崗岩	中粒			
A面	14	1	安山岩	磨石安山岩	割石			D面	3	2	花崗岩	中粒			
A面	15	2	流紋岩		割石			D面	4	2	花崗岩	中粒			
A面	16	2	流紋岩		割石			D面	5	2	花崗岩	中粒			
A面	17	2	流紋岩		割石			D面	6	2	デイスait	割石			
A面	18	1	流紋岩		割石			D面	7	1	デイスait	割石			
A面	19	1	花崗岩	中粒	割石			D面	8	1	花崗岩	自然石			
A面	21	1	流紋岩		割石			D面	9	1	デイスait	割石			
B面	1	1	デイスait		割石	ノミ痕有、磨石、A20と同一		D面	10	1	流紋岩	割石			
B面	2	1	流紋岩		割石			E面	1	2	デイスait	割石			
B面	3	1	デイスait		割石			E面	2	1	デイスait	割石			
B面	4	2	花崗岩	中粒	割石			E面	3	2	凝灰岩	珪化			
B面	5	1	デイスait		割石			E面	4	1	花崗岩				
B面	6	2	花崗岩	中粒	割石			E面	5	1	デイスait	割石			
B面	7	1	デイスait		割石			E面	6	2	安山岩	自然石	G1と同一		
B面	8	1	流紋岩		割石			E面	7	1	流紋岩	割石	G1と同一		
B面	9	1	花崗岩	中粒	割石			F面	1	1	安山岩	割石	G5と同一		
B面	10	1	花崗岩	中粒	割石			F面	2	2	安山岩	割石	G7と同一		
B面	11	1	デイスait	中粒	割石			F面	3	1	デイスait	割石	G4と同一		
B面	12	1	花崗岩	中粒	割石			F面	4	2	デイスait	割石			
B面	13	1	デイスait		割石			F面	5	1	デイスait	割石			
C面	1	1	花崗岩	中粒	割石	B14と同一		F面	6	2	花崗岩	割石			
C面	2	1	デイスait		割石			F面	7	2	花崗岩	割石			
C面	3	1	デイスait		割石			F面	8	1	花崗岩	割石			
C面	4	2	花崗岩	中粒	割石			G面	2	2	安山岩	自然石			
C面	5	1	花崗岩	中粒	割石			G面	3	2	花崗岩	割石			
C面	6	2	デイスait		割石			G面	6	1	流紋岩	割石			

注1) 「石材特徴」及び「その他」の一部は、大友幸子教授のご指示による。それ以外は調査担当者による記載である。
 注2) 加工度については、目視できる範囲で割り、ハツリ、ノミ痕などが確認できる場合は割石、まったく加工が確認できない場合は自然石とした。

2 立会調査

(1) 長谷堂城跡

長谷堂城及び長谷堂城堀跡は、山形市の南西部、大字本沢地区に位置する。標高約200mの独立丘を利用して築城されており、慶長5年（1600）の出羽合戦の舞台として著名である。往時は丘の周囲を土塁及び水堀が囲んでいたと伝えられ、城郭の平面規模は南北450m・東西350mの広さに及ぶ。これまでも公園緑地課による公園整備に伴い、随時試掘調査・立会調査等の措置を行ってきた。

平成22年度は、長谷堂城跡の御前清水広場整備予定地の試掘調査、また、御前清水広場整備工事並びに八幡崎口から八幡神社に至る園路の整備工事に伴い立会調査を実施した。

試掘調査では、盛土や現代の埋立土直下で地山が確認され、長谷堂城に関わる遺構・遺物は確認されなかった。対象地はもともと宅地であったため、過去の造成などにより削平されたものと考えられた。

立会調査では、いずれの工事箇所からも遺構・遺物は確認されず、埋蔵文化財に対する影響は始まらないものと判断された。

(2) 成沢城跡

成沢城は、山形市の南東部、蔵王成沢地区に所在し、標高約200mの奥羽山脈裾野に立地している。城の西側を鳴沢川が流れ、現在も部分的に土塁や虎口が残存している。城郭の平面規模は、南北580m・東西350mの広さに及ぶ。

平成22年度は、公園緑地課による成沢城跡公園整備に係わり実施される駐車場敷地造成、トイレ設置、案内板設置工事に伴い立会調査を実施したものである。工事対象地は平成21年度に試掘調査を実施しており、成沢城に関わる遺構・遺物は発見されていないが、念のため立会調査を実施した。

各工事箇所において掘削時などに立会調査を行ったが、いずれの箇所からも遺構・遺物は確認されなかった。工事による掘削も狭小なもので、埋蔵文化財に対する影響は比較的軽微なものと判断された。



第5図 長谷堂城跡調査位置図

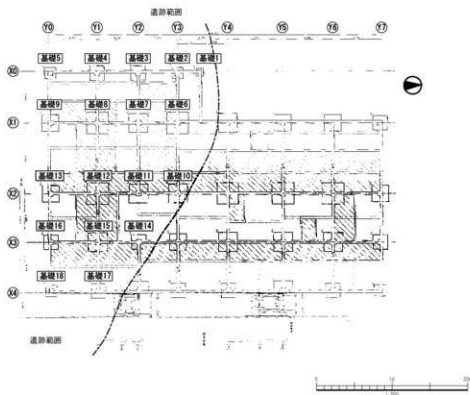
(3) 大森齊当遺跡

今回の工事は、社会福祉法人山形による特別養護老人ホーム「サンシャイン大森」増築工事に係り実施される、基礎掘削工事に伴い、実施したものである。新築される建物の事業地は元駐車場であり、1m以上の盛土がされていた部分であったため、盛土撤去後に立会調査を実施した。

工事内容は、ラップルコンクリートを18ヵ所設置するもので、コンクリート基礎の規模は約100×100cm～285×285cmを測る。

X1及びX0のラインに入る基礎（9ヵ所）については、浅いところでは現地表より約30cmの深さで、褐色～黄褐色土の地山または河川堆積に由来すると判断される黄褐色砂礫の地山が確認された。精査したが、掘削断面及び底面のいずれからも遺跡に係わる遺構・遺物は確認されなかった。

一方、X2・X3・X4のラインに入る基礎（9ヵ所）については、盛土直下が黄褐色土または黄褐色砂礫の地山であった。駐車場造成の際、耕作土などの旧表土が削平されたものと考えられる。遺構の確認はこの地山上面で行ったが、南西部の基礎⑬付近で、平安時代の土器片とともに焼土や炭が検出され、竪穴住居跡と判断される遺構が検出されたため、工事による掘削を一時中止していただき、遺構の掘下げや遺物の取上げ及び写真等による記録作業を実施した。その他の基礎については、一部遺物は採集されたものの遺構は確認されなかった。



第7図 大森齊当遺跡立会調査概要図

II 調査の概要



写真1 基礎2層序（南から）



写真2 基礎3層序（東から）



写真3 基礎13・竪穴住居検出（南西から）



写真4 基礎13・竪穴住居床面（南東から）



写真5 基礎13・竪穴住居焼土面（北から）



写真6 基礎13・竪穴住居完掘（北から）

写真図版1 大森齊当遺跡 立会調査写真

山形市埋蔵文化財調査年報

－ 平成 22 年度 －

2012年 3 月31日発行

発行 山形市教育委員会

〒990-8540 山形市旅籠町二丁目3番25号

TEL023-641-1212

印刷 コロニー印刷(山形福祉工場)

〒990-2322 山形市桜田南1-19

TEL023-641-1136
